

事業所自己評価表(第1回)

事業所名: スミール

記入年月日: 令和1年8月31日

		チェック項目	職員からの意見 (工夫している点、課題や改善すべき点など)
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	移動しやすい機器を利用し、スペースが有効活用できるようにしている。ベッド等移動が出来るように工夫している。
	2	職員の配置数は適切であるか	利用者数の増加にあわせて非常勤職員を採用している。基準を守っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	段差の際バリアフリー構造で、通路やドアの幅も広くしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	整理・整頓・清潔・清掃・躰の5sの徹底に努める。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	定期的なミーティングにより多くのスタッフの意見を取りまとめていく仕組みを構築に努める。一応できているが、まだまだ不十分である。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	情報発信、家族支援体制の強化が必要である。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	広報誌を作成し、情報発信を強化していく必要がある。今年が初めてである。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	定期にスタッフが研修に参加できるように勤務シフトを工夫する。理事長が定期的の研修会を開いている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	必ず利用開始前に体験利用を実施。体験利用時は保護者と同伴してもらい適切なアセスメントを行ったうえで個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	より質の高いアセスメントが出来るようにツールを改善していく。
	11	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	スタッフ間での情報共有を強化していく。いつでも確認。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っているか	様々な職種の意見が反映されたプログラムが作成できるように努める。保育士が案を出して、全体で話し合っている。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	季節ごとのテーマに従ってプログラムを改編していく。担当者が一緒ににならないように配慮している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて個別支援計画を作成しているか	利用者ごとの特性についての理解をより深めていく。月々テーマを決めて行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	朝礼、終礼にて情報共有を行っていく。前日にボードに役割分担や担当者を記入している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	勤務時間帯の違うスタッフ同士でのコミュニケーションができるよう連絡帳などを活用する。帰りがバラバラのため出来ない。
	17	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	個人別のサービス提供記録簿の情報を共有する。記録を残し会議を開いている。
18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	モニタリング時期には、保護者との個人懇談を実施している。6ヶ月ごとに見直しをしている。	
関係機関や保護者との連携	19	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	必要に応じて、児発管・看護師等の専門職が参加している。児発管が担当者会議に必ず出席している。
	20	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	定期的に、保護者・家族が参加できるイベントを開催する。
	21	地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	医療的ケアが必要な児童についての就学支援を強化していく。一宮特別支援学校に見学に行っている。
	22	子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	主治医から診療情報提供書をもらうようになっている。出来るだけ主治医より診療情報提供書をもらっている。
	23	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	グループ内の企業内保育所の園児と交流する機会を設けている。一応あるがもう少し増やしていきたい。
	24	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っているか	連絡帳を活用し日々の情報共有を行っている。送迎時にその日の状況を伝えている。

		チェック項目	職員からの意見 (工夫している点、課題や改善すべき点など)
保護者への説明責任等	25	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約前に必ず説明を行っている。 管理者が丁寧に説明している。
	26	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	内容を説明し、書面による同意を得ている。
	27	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	退院後の利用再開時などには事前訪問して、情報収集や相談援助をおこなっている。 送迎の際にも聞くことがある。
	28	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	ボランティアによるジャズコンサートなど、家族が参加できるイベントを開催している。 未だに出来ていない。
	29	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	いつでも施設が見学できる体制にしている。 出来る限り対応するようにしている。
	30	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	特別な行事の前には事前案内を配布している。 未だ出来ていない。
	31	個人情報の取扱いに十分注意しているか	厚生労働省のガイドラインを遵守するように努めている。
	32	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	専門研修に参加しコミュニケーション能力の向上に努める。
非常時等の対応	33	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	項目ごとに対応したマニュアルを作成し、適切に対応する。 マニュアルはあるが不完全である。
	34	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	マニュアルに沿った訓練を定期的実施する。 未だできていない。
	35	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	お薬手帳のコピーを必ずもらうようにしている。
	36	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	アセスメント時に必ず聞き取りしている。
	37	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	ヒヤリハット報告書を作成し、事業所内で情報を共有する。